

優秀賞

伝えたい「どちらいか」の心

徳島県 城ノ内中等教育学校 一年
森 一翔

みなさんは、『どちらいか』という言葉を知っていますか。この言葉は、僕が住んでいる徳島の方言の一つです。僕の祖父はよく使いますが、僕はほとんど使いません。『どちらいか』は、若者が使わなくなっている方言の一つでもあります。

祖父は、まだ現役で自営業をしています。仕事を終わると、お客さんに「ありがとうございました。」と言われていました。そのときに祖父は、必ず「どちらいか。」と言っています。

「なんで『どちらいか』って言っとるん。」と祖父に聞くと、

「こちらこそ、仕事をさせてもらってありがとうという気持ちがあるからだよ。」

と教えてくれました。

また、近所の人から野菜をもらうときは、祖父が「ありがとう。」と言って、近所の人「どちらいか。」と言います。このときの『どちらいか』の意味は、こちらこそいつもお世話になっているからお互いさまですよ、という意味だと僕は感じています。

そこで改めて『どちらいか』の意味を調べてみると、「どういたしまして」にあたる言葉、つまり感謝に対するお返しの言葉とありました。語源は「どちらへ感謝しているのですか」だそうです。つまり、もし自分に感謝しているのであれば、こちらの方こそ感謝するべきですよ、という意味です。『どちらいか』のひとつに、使う場面や立場によって互いを思いやる、いろいろな意味が込められているのです。

しかし、僕の学校生活ではあまり『どちらいか』を耳にしません。それどころか、その意味すら知らない友達もいます。そんな中でも、中学生になってから一度だけ言われたことがあります。オンラインゲーム中、手助けしてくれた友達に僕がお礼を言うと、「どちらいか。」と返ってきました。そのとき、僕は心が温かく嬉しい気持ちになりました。なんだか、こちらも『どちらいか』と言いたくなりました。ゲームの中でもこんなに良い気分になるのだから、生活の中でお互いの顔を見て使うともっと良いと思います。

それとは逆に、「ありがとう」という言葉は、日常生活でとてもよく耳にします。それだけ、さまざまな親切が僕の身の周りにあるのだと思います。今まで親切は「してあげる」「してもらう」ものだと思っていました。だから、「ありがとう」と言ったり言われたりで終わりでした。ですが、そのあとに『どちらいか』を使うことによって、助け合って生きているのだからお互いさまですよ、と伝えることができるのではないのでしょうか。

『どちらいか』には、小さな親切の積み重ねや助け合いの心がつまっていると思います。だからこの言葉が薄れても、込められた心は忘れずにいたいのです。そして、僕が『どちらいか』という言葉を使うことで、みんなにお互い助け合って生きていることを伝えていきたいです。

このすてきな言葉の良さを広めて、もっと小さな親切があふれる世界にしたいと思います。